

○ かがみいし油田計画の概要



指します。
最初の取組として昨年度、町内の2団体に委託し、中町地内(16a)と池の台地内(35a)になたね栽培技術実証展示ほ場を設置しました。今年の4月には、実証展示ほ場のなたねが見事に咲き誇り、畑一面が黄色に彩られました。6月には、コンバインで刈り取りを行い、種子を収穫しました。この種子から搾油した「なたね油」を、今年

【なたね・エゴマ作付助成】

町では、「かがみいし油田計画」の推進と、なたねやエゴマ栽培の生産コスト削減のため、作付助成を行っています。

- ・なたね作付助成 7,000円/10a
- ・なたね刈取助成 7,000円/10a
- ・エゴマ作付助成 9,000円/10a

度は学校給食用として提供する予定です。



耕作放棄地の現状

耕作放棄地とは、農林業セクタス(統計調査)において、農家が以前作付していた土地で、農作物を1年以上作付せず、数年の内に作付する予定が無いと回答した田畑、果樹園のことです。

高齢化や後継者不足により、耕作放棄地の増加が全国的に問題となっています。耕作放棄地の面積は、平成27年には全国で42万3千haとな

り、この面積は、福島県の3分の1ほどの面積となります。

町農業委員会が毎年実施している農地利用状況調査の結果を基に、町内の耕作放棄地の状況をみると、平成25年は48haだったものが、平成29年には72haに増加しています。

経営耕地(耕作している耕地)が1,115haとなっており、耕作放棄地となつてしまつた面積は約6%になります。耕作放棄地の面積は年々増加しており、対策

を講じなければ今後も益々増加していくことが予想されます。

一度耕作放棄地になつてしまつと、数年の内に耕地の原形を失うほど荒れてしまつます。また、繁茂した雑草や発生した病害虫が周辺の農地に悪影響を与えるほか、生い茂つた雑草は、イノシシなどの絶好の棲家となつてしまつます。そして、雑草により死角が生まれることで、不法投棄や火災発生の原因となるなど、周りの環境に様々な悪影

耕作放棄地から油を採ろう！

かがみいし油田計画

鏡石町は県内でも有数の農業が盛んな町です。しかし、そんな鏡石町でも耕作放棄地の増加が深刻な問題となっています。

そこで町では、平成29年度から「かがみいし油田計画」として、耕作放棄地で「なたね」や「じゅっねん(エゴマ)」を栽培することで、耕作放棄地を有効活用する取組を行っています。今月号では、耕作放棄地の現状と取組の概要についてご紹介いたします。

産業課 ☎62-2118

響を与える恐れもあります。

かがみいし油田計画

町では、年々増加する耕作放棄地への対策として、「かがみいし油田計画」に取り組んでいます。

【なたね油と健康】

なたね油の主成分はオレイン酸です。オレイン酸はオリーブオイルの主成分でもあり、健康効果として、コレステロールの値を下げたり、生活習慣病の予防・改善が期待できます。

なたね油搾り・ろうそく作り体験

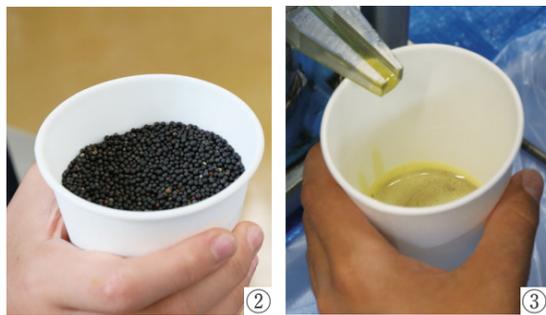
7月7日(土)公民館で、アドベンチャークラブ「なたねの油搾り・ろうそく作り体験」が行われました。参加した子どもたちは、ムシテックワールド(須賀川市)や町産業課職員の指導のもと、専用の装置を使つてなたねの種子から油を搾り出す「搾油」体験と、使い終わった食用油を使った「ろうそく作り」体験を行いました。

搾油体験の行程は、まず、紙コップ一杯のなたねの種子を専用フィルターの袋に入れ、装置の中に入れ蓋をします。次に、装置のレバーを何度も上下させます。しばらく

上下させていると、レバーが重くなり、さらに続けると装置の外側に黄色い液体がしみ出てきます。これがなたね油で、100gの種子から、手作業で約20g、専用の機械でも約30gしかとれない貴重なものです。装置を傾け、注ぎ口から紙コップに注ぐと搾油の完了です。

子どもたちは、レバーの重さに苦労したり、なたね油の独特な匂いを嗅いではしゃいだりしながら、なかなかできない貴重な体験をしていました。

その後のろうそく作り体験



①楽しく体験できました ②搾る前のなたねの種子 ③搾られたなたね油 ④搾油専用の装置